

### 3 水辺にはどんな植物が生えているだろうか

県内には、大小さまざまな湖沼がたくさんあり、これらの湖沼やその水辺には水生植物群落や湿性植物群落が発達しています。

水辺の植物は、水という環境の中に生活するため、根・茎・葉・花・芽などの形態が水中生活に適応して、いちじるしく変形しています。

一般に水生植物群落は図-6のように、水辺から湖沼の中心に向かって、挺水植物群落・浮葉植物群落・沈水植物群落の順にならんでいます。そして、このほか水面にはウキクサなどの浮水植物群落が見られます。

岸よりの水辺から、水深0.5～1mくらいの所には、根を沼底にはり、茎の下部が水中にあって、上部の茎や葉は空気中にぬきでる挺水植物（ヨシ・ガマ・マコモなど）の群落が見られます。県内で広く出現しているのはヨシ・マコモ群落

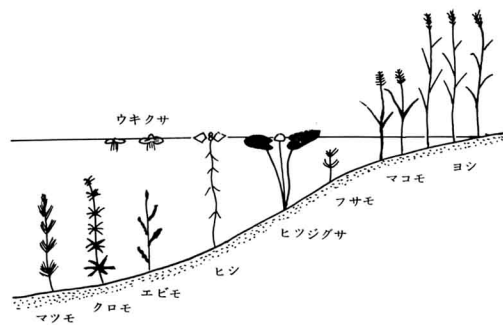


図-6 湖沼の植物群落の配列

です。このほかフトイ・ハス・ミズカンワなどが見られます。

挺水植物群落よりも沼の中心よりの方に、水深1～1.5mの所に分布して、根は沼底にあり、葉を水面に浮かしている浮葉植物（ヒシ・ヒツジグサなど）からなる群落が見られます。このほか県内に多く見られるのは、ジュンサイ・セルムシロ・コウホネなどです。

浮葉植物よりもさらに沼の中心に分布して、水上に姿を見せず、植物全体が水中にある沈水植物（フサモ・クロモ・マツモ・エビモなど）からなる群落があります。

一般に浅く、水もにごっていて、水底の土が栄養分に富んでいる池沼では、水



図-7 ヒツジグサ